

赤十字国際ニュース

2016年 第8号 2016年3月8日

(通巻 第1156号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3435-8509

E-mail:kokusai@jrc.or.jp http://www.jrc.or.jp/

■ ハイチ：増加するコレラへの対応

ハイチ中央県南部で実施している日本赤十字社（以下、日赤）のコレラ予防啓発活動について1月18日の国際ニュースでお伝えしました。今回は、実際にコレラが発生した時の対応チームの育成支援活動についてご紹介します。

■ コレラ感染が増加しているハイチ

ハイチでは大地震発生10カ月後の2010年10月、コレラが大流行しました。約70万人が感染、約8600人が死亡するという事態に発展。その後の復興で多くの支援を得た結果、コレラは減少しました。

しかし、地震から6年が経ち、復興への支援が次々に終了する中、インフラ整備の追いつかない同国は再び、コレラ感染が増加傾向に転じる不安な状況にあります。2016年2月20日現在で、同年の感染がすでに7080件に上っています（2016年3月ハイチ政府発表）。



ボランティアがコレラが発生した村を訪ねて調査。家庭の衛生環境は決して良いとは言えません。©ハイチ赤十字社

■ 地域を守るコレラ対応チーム



コレラが発生した家の消毒©ハイチ赤十字社

日赤は2015年4月から、中央県南部の6つの地域（コミューン）でコレラ発生時の対応チームを育成するとともに、発生時には家の消毒、石けんやORS（経口補水塩）などの配布、正しい感染予防法の教育を実施しています。コミューンは郡の下に位置する行政区画で、非常に広域にわたります。一つのコミューンに4人、計24人の赤十字ボランティアが研修を受け、コミューン内でコレラの疑いのある症状が報告された場合、発生した村に向かいます。

コレラ発症者が住む家を消毒し、家族にコレラキットと呼ぶ石けん、経口補水塩、バケツ、アクアタブ（浄水剤）を配り、正しい使い方を伝えて、感染を防ぎます。また、発生した家の近隣に対してもコレラキットを配布し、さらなる感染を防いでいます。

■ 山のある村々



コレラが発生した村へバケツを運ぶボランティアとスタッフ

コレラ対応チームの育成支援活動を担当している日赤姫路赤十字病院の津田看護師は、「研修し、育成したボランティアたちが村を訪ね歩き、村人にバケツを配ると、『ありがとうございます』と言われます。ボランティアの嬉しそうな姿を見た時、この支援に携わってよかったです」と語ります。

今後はこの活動を、コレラ発生時には、いつでもハイチの人びとが自ら対応できるような仕組みに成長させ、自立を促すのが最大の目標です。

ドミニカ共和国との国境に近い活動地の多くの村は山の中に位置しています。そのため、車で近くまで行っても、その後は徒歩で川を越え、山を登る必要があります。

消毒キットや大きなバケツを運ぶことは一苦労。それでも、現地の看護師やボランティアたちは、地域や人びとのために、両手いっぱいに荷物を抱えて、村を訪ね歩きます。



村人にバケツを渡す津田看護師（写真左）@ハイチ赤十字社

●赤十字活動へのご支援を受け付けています

<http://www.jrc.or.jp/contribute/support/>

〔お振り込みについての連絡先窓口〕

日本赤十字社組織推進部海外救援金担当 TEL 03-3437-7081 FAX 03-3432-5507

～今回のニュースはいかがでしたか？ご意見・ご感想をお待ちしております～

★…
大募集！
…★

良かった・もっと知りたいテーマや記事、改善してほしい点など下記アドレスにお寄せください。

ご意見・ご感想をいただいた方の中から抽選で毎月1名様に赤十字グッズを差し上げます。

いただいたご意見・ご感想は今後本ニュース内でご紹介させていただく場合があります。

☆★ 日本赤十字社国際部 kokusai@jrc.or.jp ☆★